

～企業コミュニケーションの価値を多面的に高める「場」～

日本には企業博物館が全国に1000はあるとみられています。企業博物館を立ち上げ自ら館長を務めた栗津重光さんが、全国200か所近くの企業博物館の訪問で見出したコミュニケーション価値を、あますところなく伝えます。

伊藤研修センター・史料室

〒222-0033

神奈川県横浜市港北区新横浜 2-19-1

<https://www.7andi.com/company/trainingcenter.html>

社員専用の非公開施設だが、事前に予約すれば見学も可能。

電話 045-476-2661 メール ito-kensyu@hd.7andi.co.jp

【展示の概要】

この施設は、セブン & アイグループの創業理念の伝承と知識・技術の研鑽を目的として2012年に開設された。社員の研修用に多く活用されているため、一般の見学も許可されているが、研修が優先される。1000坪の土地に4階建ての建物。「史料室」「研修室」「技能室」と分かれるが、見学可能なのは「史料室」。史料室は、創業ゾーン、挑戦ゾーン、革新ゾーン、共創ゾーン、未来ゾーンで構成されている。

【史料室】

伊藤研修センターの主要な施設の 하나가「史料室」。世界有数の小売業となったセブン & アイグループの社是「信頼と誠実」。この理念を伝承する場として5つのゾーンでさまざまな展示がなされている。

● 創業ゾーン

創業ゾーンでは、セブン & アイグループの祖業、イトーヨーカ堂の創業期が展示されている。

創業は1920年。創業者伊藤雅俊の兄が叔父からのれん分けされた洋品店「羊華堂」を戦火で失い、終戦後、母と兄弟は北千住のわずか2坪という小さな店で再出発を図った。戦後の混乱期に正札の安売りを貫き通すことで信頼を積み今日の発展の素地を築いてきた。社是の「信頼と誠実」は現在も変わっていない。創業の店

舗は、規模は拡大したが現在でも北千住に存在している。

● 挑戦ゾーン

メインの展示は、グループ創業からこれまでの歩みをまとめた年表。北千住の2坪の洋品店が世界的な小売グループへと発展してきた軌跡は、挑戦の歴史そのものを表している。

伊藤は1961年35歳の時に初渡米。大量消費社会を体現する。百貨店からセルフサービスのチェーンストア（スーパー）への時代の変化を確信し、帰国後チェーンストア経営を目指す。

● 革新ゾーン

セブン-イレブンが日本に誕生したのは、1974年。同年大店法が成立し、新規出店が厳しい時代に入った。既存小売店と大型店との共存共栄モデルを模索する中、専務であった鈴木敏文が中心になって活動し、1973年、米国のサウスランド社（7-Eleven, Inc.）と提携して、日本で初めてとなる本格的なコンビニエンスストアの展開に着手した。同時期、ファミリーレストラン「デニーズ」の展開も開始。その後、食品スーパー等も創業し、IYグループを形成する。

サウスランド社から店舗運営マニュアルを入手したが、小売業の入門書レベルのものなので、日本には向かないと判断。すべて編集し直し日本版のマニュアルを作成したという。

70年代は売り手市場で、ものが売れた時代だったが、80年代ではその傾向は完全に変化した。セブン-イレブンでは徹底した単品管理と業務改革を繰り返すことで、その時代に売り上げの大幅増と店舗拡大を実現した。

● 共創ゾーン

コンビニエンスストアをはじめ、スーパース

トアーや専門店など多様な事業領域を擁するセブン & アイグループにとって、成長の原動力は各社が互いに強みを発揮して相乗的に利益を高める「シナジー」にある。このゾーンでは、グループシナジーをテーマに、世界に広がるグループの店舗展開とネットワーク、グループ共通のプライベートブランド商品「セブンプレミアム」を中心に、グループ各社の活動や社員の姿が展開されている。

● 未来ゾーン

このゾーンでは、その時々の特ピックに基づいて、社員一人ひとりが自らの仕事と未来を問

いかける動機付けとなる展示が展開されている。「私たちのしごと」のコーナーでは、SDGsや「GREEN CHALLENGE 2050」の目的である持続可能な未来の実現について、グループ各社の取り組みが紹介されている。

【栗津の視点＝見どころ】

「研修センター」という名称の通り、日本を中心としたグループ従業員の研修をするために建てられた施設だ。伊藤名誉会長（当時）と創業家一族からの70億円という寄付の申し出に対し、人事・広報セクションのスタッフを中心に研修センターと史料室の設立構想が練られて

いった。さらに花王ミュージアムを訪問することで非常に感銘を受けたという。それは企業理念の継承の重要性である。

企業成長の歴史を整理して、社員に示すことが必要と考え、企業理念の徹底だけでなく、継承も目的としてこの施設は建設されたのである。

ヒアリング時に、セブン & アイグループでは「あまり過去を振り返ることなく歩み続けてきた」という話を聞いた。史料室に過去の製品やサービスの課程を展示しようと思っても何も残っていなかったので大変苦労したという話題もあった。

しかし、施設設立の過程で、企業理念の徹底、継承というテーマがこのグループにとっていかに重要であるかという認識が生まれ、今後の経営においても、それらの徹底を目指すことが新たな課題となった。この施設の観察、ヒアリングによって、筆者はこうした博物館の設立での新たな気づきが、未来の経営判断を変えていくプロセスをも感じる事となった。



買い物のついでに現金の出し入れができたという顧客の声に応じて、全店にATMが設置された。2001年設立されたIYバンク銀行は、実は戦後初の民間銀行だった。必要なものなら作ろう、という考え方に基づいて実現を目指したという（筆者撮影）。